



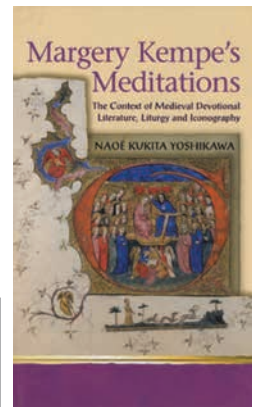
# “西洋中世の宗教・医学・ジェンダーの表象文化論的研究”

## 教授 久木田 直江 (中世英文学・文化史)

1957年生まれ。2001年英国University of Exeter, Ph.D. (英文学)。1994年北海道大学・医療技術短期大学部 (現医学部・保健学科)・講師、1996年同・助教授、2003年静岡大学・人文学部・言語文化学科・教授、1998-1999年文部省在外研究員 (University of Exeter, UK)、2006年文部科学省研究拠点形成費等補助金 (海外先進研究実践) (Visiting Professor, University of East Anglia, UK)、東京工業大学・世界文明センター・フェロー (2010-2013年)、慶應義塾大学・文学研究科・非常勤講師 (2011年一)

### 研究概要

1千年に及ぶ西洋中世はキリスト教を受容・発展させ、キリスト教的価値観を社会のすみずみまで浸透させました。中世ヨーロッパの文化的・宗教的連続性は近代を経て現代に及んでいます。私は広い意味で、西洋中世の文学、思想史、文化史の学際的研究を行い、特に、中世のイギリスで使用された言語である中英語、ラテン語、アングロ・ノルマン語で書かれた宗教文学や中世末から初期ルネッサンスのキリスト教図像学を専門としています。これまで、14-15世紀のイングランドに生きた女性、マージェリー・ケンプについて研究し、彼女が学僧に口述筆記させた、英語による最古の自伝*The Book of Margery Kempe*をロンドンの大英図書館に残る唯一の15世紀写本をもとに論考し、University of Wales Pressから単著を刊行しました (右上のブックカバーを参照)。現在は、文学研究においても文化の多元性、多様性、流動性に目配りした視点の構築が必要と考え、研究領域を広げ、中世末の宗教と医学の交差と接合を探り、文学作品、宗教書、医学書の新たな読みを提示し、人間学の問題について研究しています。



### メッセージ

1. 日本人は、政治、経済、社会、文化などのさまざまな領域で、良くも悪くも近代文明の中心であった西洋を手本としてきました。西洋史のなかで中世の春と呼ばれる12世紀に活躍した神学者シャルトルのベルナルドゥスは、同時代に生きた人びとを「巨人の肩の上ののった小人」とたとえましたが、西洋の文化はユダヤ・キリスト教のみならず、ギリシャ・ローマの地中海文化、イスラム文化、ケルト、北方ゲルマン等の遺産に負っています。ですから、西洋文明の基盤が形成された中世の歴史や文学・文化について学ぶことは、グローバル化する現代の宗教、社会、文化の諸問題に対する鋭い感覚と公平で寛容な視座を養う助けとなると考えます。

2. 私は3人の子供を育てながらアメリカやイギリスで学び、大学教員となりました。振り返ると、育児と研究の両立は困難の連続で、時には綱渡りのような経験もしましたが、「子供はいのち、仕事は生きがい」を支えに歩んできました。子育て中の研究者の方々には、人生の真昼の時間を大切に、忍耐強く進んでほしいと思います。

### 【主な研究業績】

**外部資金獲得状況:** 福原記念英米文学研究助成 (研究代表者) 「北ヨーロッパ中世神秘主義の文学と図像から見る*The Book of Margery Kempe*の研究」(2007)、稲盛財団研究助成 (研究代表者) 「イギリス中世神秘主義の文学と図像から見る*The Book of Margery Kempe*の研究」(2008)、科研費補助金基盤研究 (研究代表者) 「中世末の英文学における宗教と医学の共生的関係についての表象文化論的研究」(2011-2014)、「『マージェリー・ケンプの書』とカルメル修道会: 平信徒の霊的教育に関する写本研究」(2008-2010)、「『マージェリー・ケンプの書』の成立過程: 聖プリジット列聖をめぐる諸霊の識別の問題」(2005-2007)、基盤研究 (研究分担者) 「薬の倫理学と薬剤師の教育プログラムの構築および薬の歴史文化論的研究」(2006-2009)、研究成果公開促進費 (研究代表者) 翻訳書『マージェリー・ケンプの書 最古の自伝』(慶應義塾大学出版会、2009)、単行本『マージェリー・ケンプ-黙想の旅』(慶應義塾大学出版会、2003)

**委員等:** 日本学術振興会・科学研究費委員会・専門委員 (2008)、日本学術振興会・特別研究員等審査会・専門委員、及び国際事業委員会・書面審査委員 (2008-2010)  
**学会等:** 日本中世英語英文学会・評議員、同編集委員 (2009)、西洋中世学会・編集委員 (2012-)、同・常任委員 (2013-)、International Anchoritic Society, Asian representative (2006-)  
**著書・論文:**  
1) 久木田直江 『医療と身体の図像学—宗教とジェンダーで読み解く西洋中世医学の文化史』(知泉書館、2014)。  
2) Naoë Kukita Yoshikawa (ed. with Catherine Innes-Parker), *Anchritism in the Middle Ages: Texts and Traditions, Religion and Culture in the Middle Ages* (Cardiff: University of Wales Press, 2013).

3) Naoë Kukita Yoshikawa, 'The Translation of the *Regimen Sanitatis* into a Handbook for the Devout Laity: A New Look at the *Kalender of Shepherds* and its Context', in Alessandra Petrina (ed.), *Medieval Translator: In Principio Fuit Interpres* (Turnhout: Brepols, 2013), pp. 303-15.  
4) 湯之上隆・久木田直江編『くすりの小箱: 薬と医療の文化史』(南山堂、2011).  
5) Naoë Kukita Yoshikawa, 'Holy Medicine and Diseases of the Soul: Henry of Lancaster and *Le Livre de Seyntz Medicines*', *Medical History*, 53 (2009), 397-414.